

授業科目(ナンバリング)	異文化コミュニケーション論(AC209)			担当教員	滝 知則		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
異文化を理解し国際社会に貢献できる人材になるためのコミュニケーションのスキルを、グループプレゼンテーションを通じて学修する。具体的には、文化とは何か、コミュニケーションとは何かを理解したうえで、自分とは異なる文化を持つ人に自分の考えと気持ちをどう伝えたらよいか、また相手の考えと気持ちをどう受け取ればよいかを学ぶ。							①⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションなど、コミュニケーションに関する対照的な諸概念を類別できる。				予習・復習 随時試験	10% 15%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	異文化摩擦の事例に関し、摩擦を減少させられるような表現で書き話したりできる。				レポート 随時試験	10% 25%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	異文化摩擦の事例の中で、具体的に何が問題となっているか、その問題の背景にある文化は何かを説明できる。				予習・復習 レポート 随時試験	10% 10% 20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
毎回の授業の準備ならびに復習への取組を評価する(予習・復習20%)。フィードバックは翌週の授業で行う。学習内容の理解度とグループワークへの取組を、レポートで評価する(20%)。フィードバックはレポートの相互評価により行う。定期試験(60%)では、この授業で学んだ諸概念の理解度と、摩擦を減らすための具体的な表現がどの程度できるかを評価する。							
授業の概要							
「自分が見聞きしたり感じたりすることにどう意味づけをするか」への注目が、異文化コミュニケーションの学修にとって重要である。授業の前半(言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション)では、コミュニケーションというものが、私たちが通常感じているよりも多様であることを学ぶ。授業の後半では、価値観が「意味づけの違い」に影響することを学ぶ。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない。プリントを配布する。 参考書：八代京子他(2001)異文化コミュニケーションワークブック。三修社。 指定図書：久米昭元(2007)ケースで学ぶ異文化コミュニケーション。有斐閣。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業中の私語は、社会人としてのコミュニケーション能力の不足を示すほか、周囲の他の学生の迷惑にもなるので、厳に慎むこと。正当な理由のない遅刻、欠席、途中退室は認めない。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この授業のねらい、テーマとスケジュールを確認する。プレゼンテーションについて。	(予習) シラバスをよく読んでおくこと。(復習) 復習問題の解答をポートフォリオ(PF)に提出(次回の予習) 参考書 pp. 18-25, 28-31.
2	現代の社会と異文化コミュニケーション	①文化とは、②異文化コミュニケーションとは	(予習) 参考書 pp. 45-68. (復習問題) PFに提出
3	コミュニケーションとは何をする事か	①コミュニケーションの定義、②コミュニケーションの説明モデル、③共通の意味の形成	(予習) 参考書 pp. 84-90, 46-50. (復習問題) PFに提出
4	言語コミュニケーション(1)	①話し方、②自己開示	(予習) 参考書 pp. 104-117. (復習問題) PFに提出
5	言語コミュニケーション(2)	①相互発話、②コンフリクト・マネジメント	(予習) 参考書 pp. 125-143. (復習問題) PFに提出
6	非言語コミュニケーション(1)	①非言語コミュニケーションの種類、②身体動作、③空間の使い方	(予習) 参考書 pp. 144-158. (復習問題) PFに提出
7	非言語コミュニケーション(2)	①準言語、②人工品、③時間の使い方	(予習) 参考書 pp. 163-167, 171-176. (復習問題) PFに提出
8	見えない文化(1)	①価値観、②価値観の比較(1) 国民文化	(予習) 参考書 pp. 179-189, 193-204. (復習問題) PFに提出
9	見えない文化(2)	①価値観の比較(1) 国民文化(つづき)、②価値観の比較(2) その他の文化	(予習) 参考書 pp. 221-230. (復習問題) PFに提出
10	異文化をどうとらえ、どう接するか(1)	①カテゴリー化、②ステレオタイプ、③ステレオタイプへの対応	(予習) 参考書 pp. 235-245. (復習問題) PFに提出
11	異文化をどうとらえ、どう接するか(2)	①自文化中心主義と文化相対主義、②異文化への期待がコミュニケーションに与える影響	(予習) 参考書 pp. 249-252. (復習問題) PFに提出
12	異文化をどうとらえ、どう接するか(3)	①D. I. E. メソッド、②プレゼンテーションの準備の指示	(予習) 参考書 pp. 261-266, 269-276. (復習問題) PFに提出
13	カルチャーショック	①カルチャーショックとは、②異文化適応のモデル	(予習) 参考書 pp. 277-293. (復習問題) PFに提出
14	プレゼンテーション	担当教員が示した事例、ないしは自分たちで調べた事例について、これまでの学修に基づいて分析した結果を報告する。	(予習) プレゼンテーションの練習(復習問題) PFに提出
15	全体のまとめ	①この授業で学んだことをふりかえる。②学習内容をこれからどう活かしていくか。③定期試験の準備。	(予習) 第2回から第14回までのプリントを持参する。(復習) 理解度が低い点の再確認